



【退院後の受診の目安～赤ちゃん編】

赤ちゃんは日に日に大きくなり表情も変化します。中には、1ヶ月健診までに心配な症状が出現する場合があります。以下に受診していただきたい目安を記述しますので参考にしてください。

1. 熱が出た

1) 授乳や泣いた後の場合

…様子を見てしばらくして測り直してください。部屋が暑すぎないか、着せすぎているか確認しましょう。

2) 寝ているときに38度以上の熱があり、ぐったりしている、顔色が悪い

…救急対応のできる病院を受診してください。

2. 皮膚の状態

1) 皮膚が黄色い…入院中と比べてどうですか。

同じくらい黄色い…生理的黄疸がほとんどです。

どんどん黄色くなってきた…受診しましょう。

あまり母乳も欲しがらない…受診しましょう。

2) 口や鼻の周りが青紫色…他の部分の体色が良ければ問題ありません。

※顔面全体や全身に及ぶ場合すぐに受診しましょう。

3) 頭・眉・頬に黄色のべたべたした発疹がある

…石けんでしっかり洗い、ベビーローションで保湿しましょう。

4) おしりが赤くただれている

…排便後こまめにおむつを替え、臀部を洗いましょう。

3. おへそ

1) おへそから血が出た

→綿棒やおむつに付着するくらい…きれいに洗いよく拭き取って乾燥させましょう。

→赤い血液がタラタラ出てくる…小児科を受診しましょう。

2) おへそのまわりが赤く熱を持っている、皮膚がかぶれてきた、臍肉芽（おへそのとれた後に残る芯のようなもの）ができている…小児科を受診しましょう。

• おへその消毒は1ヶ月健診まで続けましょう。

4. 便の状態

1) 下痢をしている…母乳便の特徴です。機嫌よく体重増加があれば心配ありません。

2) 便の色が白・黒・赤・薄いレモン色…実際に出たものをもって受診しましょう。

3) 便が出ない

→機嫌よくおっぱいを飲んでいる…問題なし。

→2日以上便が出なくて機嫌が悪い…綿棒刺激をしてみましょう。

→4日以上便が出なくて機嫌が悪い…受診しましょう。

※綿棒刺激：オリーブオイル（ワセリン）をつけ、肛門から1 cm程度差し込み刺激をしてください。

5. 吐いた

1) おっぱいや唾液→いつもと変わらず元気・泣いている…様子を見ましょう。

2) 1日に何度も噴水のようにたくさん吐く…吐いたものを持って小児科へ。

3) 赤や黒や緑色のもの…吐いたものをもって小児科へ。

6. 目やに

1) 少し付いている…濡れたガーゼやコットンでふき取り様子を見ましょう。

2) 目やにで目が開かない…小児科や眼科を受診しましょう。

